

卒業生のネットワークづくり —福祉研究室の役割を考える—

保延成子・三角 同・本間真宏
(東京家政大学)

個々の人間に関わる生理学や心理学のような学問に対して社会学が相対的自律性を持つかは、結局のところ、多くの人々の行為の相互依存関係とネットワーク形成から生ずる過程の構造が、行為する諸個人に対して相対的自律性を持ったためである。N・エリアス(徳安訳)「社会学とは何か—関係構造・ネットワーク形成・権力」法大出版局 1994)

はじめに

私たちは、これまでに次のような「共同研究」をとおして多くの卒業生たちと関わり合いをもってきた。

- (1)三角同(他)「職業としての家政学」(5.62~65)
- (2)保延成子(他)「福祉実践を考える」(H.元~4)
- (3)川瀬八洲夫(他)「児童の権利の法制史的研究—子どもの生活・文化・教育との関わりにおいて」(H.4~6)
- (4)本間真宏(他)「卒業生のネットワークづくりを考える—福祉研究室を中心に」(H.6~8)

この成果は次のような形で、それぞれに発表してきた。

- (1)保延成子「保育実習の現状と今後の課題—(2)—学生へのアンケートを中心として」全国保母養成協議会第17回研究大会発表(5.53)
- (2)同「保育実習の現状と今後の課題—(4)—学部における保母養成のあり方を考える」全国保母養成協議会第25回研究大会発表(5.61)
- (3)同「保育実習の現状と今後の課題—(5)—」全国保母養成協議会第26回研究大会発表(5.62)
- (4)三角同「保育実習の諸問題—「実習日誌」に書けなかったこと」日本保育学会第41回大会発表(5.63)
- (5)三角同(他)「福祉実践について—(1)—」本学紀要第28集所収(5.63)
- (6)保延成子「今後の保育者養成を考えるために」全国保母養成協議会第27回研究大会発表(5.63)

- (7)保延成子(他)「福祉実践について—(2)—」本学紀要第29集所収(H.元)
- (8)三角同(他)「福祉実践について—(3)—」本学紀要第30集所収(H.2)
- (9)本間真宏(他)「福祉実践について—(4)—介護福祉士の養成教育を中心に—」本学紀要第31集所収(H.3)
- (10)三角同(他)「福祉実践について—(5)—」本学紀要第33集所収(H.5)
- (11)保延成子「保育実習について—(2)—」日本保育学会第40回大会発表(H.5)
- (12)保延成子「保育実習の諸問題—(2)—実習日誌から考える」本学紀要第34集所収(H.6)
- (13)保延成子・本間真宏「児童の権利の法制史的研究—(2)—子どもの人間的発達と福祉権に関連して」日本保育学会第47回大会発表(H.6)
- (14)本間真宏・保延成子「児童の権利の法制史的研究—(2)—子どもの人間的発達と福祉権に関連して」本学紀要第35集所収

これらもふまえて、私たちは研究室を中心とした卒業生のネットワークづくりというテーマにとりくむことになったのである。そのキッカケとしては、次のような点があげられるように思われる。

直接のキッカケとしてはキャンパス整備の都合による研究室の移転ということであった。共同研究者のひとり(本間)が赴任して20年月という節目でもあった。これまで福祉資料室には多くの蓄積が整理もされずに保管されていたこともあった。その散逸を防止するためにも何らかのまどめをしておく必要があったといえよう。こうして私たちは平成6年4月から3年間の計画で特別研究費を申請した。それが受け入れられて私たちは、次のような作業に入ったのである。

やったこと—(1)—

まず研究室の雑誌を作ろうということになった。「TKUジャーナル」第1号は平成6(1994)年3月に刊行された。それにはまづ昭和50(1975)年3月に福祉研究室で卒業論文を書いて卒業した学生から平成4

(1992)年までの140名について、そのテーマを掲載した。

次いで平成4(1993)年に大学院修士課程(児童学専攻)を修了した2名とその年に卒業論文を書いた学部生29名の論文要旨を収録した。さらに短大保育科に設定されている「ゼミナール」を履修した学生の2年間の思い出をのせることもできた。もちろん非常勤で授業を担当してもらっている先生のメッセージものせた(今後の課題として、これまでに非常勤で担当していただいた先生方のそのものをいきたいと考えている)。こうして第1号を140名の方に郵送した。所在不明で戻ってきたのが10通、実に71.4%の把握率であった。返事がきたなかから、いくつかを紹介してみることにしたい。

(1)3月に「TKUジャーナル」をお送りいただき、どうもありがとうございます。卒業して約20年になることに驚き、又、後輩がこのようにたくさんいることに親しみを感じました。卒論の内容も時代と共に変化していることがよくわかりますね。

20年先の施設実習の心細かったことなど、いろいろ思い出されて懐しく思いました。本間先生について語っているところなど「私達の頃も、そうー同じ！」とつい読みながら相槌をうち微笑んでしまいました(中略)。

(2)このたびは「TKUジャーナル」の創刊おめでとうございました。わざわざ海外にまでお送りいただきありがとうございます。興味深く読ませていただいております。家政大の風景や行事も思い出され本当に懐かしいです。学生はどんどん卒業していくのに、引き続き同じことに関心を抱き、さらにテーマを掘り下げていくのが楽しいですね(中略)。

(3)「TKUジャーナル」をお送り頂きありがとうございます。1ページ1ページ読み進めるにつれ、私の知らない先輩そして後輩の方々と、こうした形でつながれることに嬉しさがこみあげてきました。(中略)学生時代の時を含め10年の歳月を過ごした家政大を離れた今、その頃とはだいぶ異なる生活をする中でも、フッと想いを寄せられる場を研究室に見出すことは幸せに思うのです。たとえ時代の流れで変わるものがあったとしても……。

やったこと —(2)—

第2号は平成7(1995)年3月に刊行した。又、昭和53(1978)年に短大保育科Dクラス(担当は本間)の「その後」についての文集「花も嵐もふみこえてー乙女たちの今！」を作成した。紹介してみたい。

(1)家政大を卒業して18年になります。何年過ぎたのかということすら忘れておりました。先日「TKUジャーナル」の創刊号と2号を受けとり、その年月の重さを感じとれ、しみじみと読み返しています。新しい住所もお知らせせず申し訳ありませんでした。私は今アメリカのコネチカット州に住んでおり、実家の母が転送してくれました。

18年もたっているのにちゃんと私の名前も忘れずに記されていることに感動してしまいました。あの頃の記憶が鮮明によみがえります。「今までの記録」は今年中に、とありましたのでもう少しじっくり考え振り返りながら書いてみたいと思います。自分自身の歩いてきた道をふりかえってみるのもいいことではないかと思えます。

(2)「TKUジャーナル」送っていただきありがとうございます。保延先生が4月より講師に昇格されるとのことおめでとうございませう。卒業してからも、このような嬉しい出来事を知らせていただけるのはたいへん有難いことですね(中略)。

(3)短大を卒業して15年。「あーというまにこんなに月日がたってしまった」というのが実感です。この間、就職、結婚、出産、子育てと次々に今まで経験したことのない事が私にも訪れました。色々な事が思い出されるのに、いざ文章で書くととなかなかなかまとまりません。3年生の次男がやってきて「お母さん何してるの？」私が「作文の宿題をやるの」というと「題は考えたの？何を書くか決めた？早く書いてちょうだい」と。

おわりに

関係ネットワークをもっと見通せるようにし、それと同時にまた、関係ネットワークによって構成メンバーが盲目的、専制的に引きずりまわされることが少なくなるようにすることは、社会学に課せられた中心課題の一つである(N・エリアス「希掲書」)